

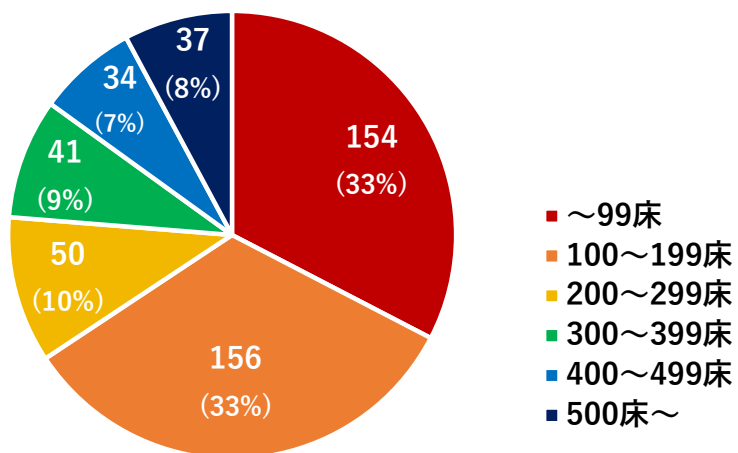
勤務環境改善状況セルフチェックシートの集計結果（2026.2.28）

都内病院における勤務環境改善状況及び支援ニーズを確認し、各病院の現況に応じた勤務環境改善支援センターの支援メニュー等の紹介及び取組方向性を検討するため「勤務環境改善状況セルフチェックシート」を実施

◆調査の概要

1. 回答状況

- ・調査対象：都内全病院（625病院）
- ・調査開始日：令和7年8月21日
- ・回答数：472病院（11月報告時より75病院増）
- ・回答率：75.52%



- ・主な設問：①医師の労働時間の把握・管理
②多様な働き方を推進する環境整備
③勤務環境改善マネジメントシステム
④支援ニーズの有無

◆総評

1. 基本的な取組は“概ね実施済”

基本的な取組について、概ね実施（約75%超）している

- ・育児・介護休暇や柔軟な勤務時間制度の整備
- ・各種ハラスメントに対するサポート体制の整備
- ・看護補助者・医師事務作業補助者を中心としたタスクシフト

は「実施」回答は85～99%と高水準であり、制度を整備段階からうまく運用し、取組を継続（定着）する段階へ

2. 取組の高度化や継続・改善は、一定数未実施

以下のような項目は、今後の支援対象と考えられる

- ・勤務環境改善マネジメントシステムやPDCAサイクルの活用
- ・職員満足度調査の体系的実施

※未実施の理由として、取り組む必要に迫られていない、実施するマンパワーがないという回答がそれぞれ多い

3. 第一回部会報告の傾向と概ねかわらない

なお、特定労務管理対象機関は相対的に取組が進んでおり、一般病院と精神科病院（東精協加入）の比較に有意差はない

勤務環境改善状況セルフチェックシートの集計結果 (2026.2.28)

◆長時間労働医師の在籍状況把握

※自己研鑽を除いた
令和6年度年間実績

1. 時間外・休日労働時間が、720時間を超える医師の在籍

- ・在籍している：8.05% (38病院)
- ・診療科傾向：外科系、循環器内科及び消化器内科が多く、急患対応の多い診療科が該当
⇒地域医療体制確保加算を算定中の約140病院より少ない
※救急搬送2,000件以上受入要件有、時短計画作成対象

2. 時間外・休日労働時間が、960時間を超える医師の在籍

- ・在籍している：0.42% (2病院)
- ・診療科傾向：肝胆膵外科、循環器内科及び消化器内科
※内科宿日直が維持できなくなると超過してしまうという病院が1病院あり

⇒いずれの医療機関にも個別に状況確認を行っており、
特例指定は受けず、960時間未満に抑える方針

※なお、いずれも特定労務管理対象機関50は分母から除いている

◆勤務環境改善マネジメントシステム

1. 仕組みの認知度

- ・認知している：56.57% (267病院)

2. 勤務環境改善を行う会議体の設置

- ・設置している：70.97% (335病院)

3. 勤務環境改善のPDCAサイクル活用

- ・活用している：42.37% (200病院)

⇒上記いずれも肯定回答の病院：150病院

- ・400床以上の48病院は、全病院該当 (100%実施)

- ・399床以下の病院は、半分以下の該当

※「勤務環境改善マネジメントシステムの導入機関数の増」
は、勤改センター年間活動計画のアウトカム指標であり、
引き続き導入支援 (現状分析・課題抽出) を行っていく

◆今後の対応

○都内病院には、全体集計結果を共有し、自院の今後の取組の参考としていただく

○次年度も上記2項目についての簡易調査を実施するが、他に病院間の情報共有を意識した項目の選定を検討